

『タハラ横浜店インスタライブ (1999.04.11 in タハラ横浜店)』ライブ・レポート

text by 鹿子

kashi no kai

大スター夢の競演、だと云うのにあいにくの空模様。

けれどその雨がもたらした幸運か、私と友人はなんとか最前列を陣取ることが出来、ステージ上のシュミレーションをしてはドキドキしながら開始を待っていました。

しばらくすると、どこからともなくあがたさんが飄々と登場。

予定より 15 分程早めに現われたので面喰らっていると「リハーサルやります」。

あがたさんのリハが終わり、いよいよ！トコトコと歩いてかしぶちさんが！ピンストライプの黒のスーツに黒いシャツというスタイルを少しの嫌味もなくサラッと決め、ギターを抱えおもむろに「Deux Ciel ふたつの空 」を唄い出します。

リハーサルとは云えライブさながらの演奏に思わずウツトリ...いきなり魅了されてしまい...。あんなに間近でかしぶちさんを見たのは、今回がはじめてというのもあってか、私はトキメキを隠せず口元は緩みまくり、正視もうまく出来ず、それでもなんとか見つめていました。

ポーっとしている間にリハは終わり、ちょうど 3 時、かしぶちさんからライブスタート。1 曲目は「恋のためらい」。かしぶちさんのボーカルのみで聴くと、また違った雰囲気を楽しめました。デュエットの女性に嫉妬することもなくゆったりと聴けて。かしぶちさん、なんだか唇が赤かったような...。気のせいかな？丁寧に唄い終え、「次はライダーズの曲を演じます、Frou Frou」。フルフル...？そう云われた後、一瞬私は何がなんだか分からなくなり...。そう、待ちに待った FrouFrou っ！あとはもうただただ歌詞のひとつひとつが幸せ、それらをかみしめながらじっと聴き入ってました。アコースティックなのに熱っぽく、静かな高揚感で、私の体温をどんどん引き上げて行くばかり。なんだかポーっとしてしまってよく覚えていないのですが。本当に素敵な唄でした。ここまででかしぶちさんのソロは終了。

続いてインタビューコーナーへ。ゲンズブルナイトの話など。お終いに、"日本のゲンズブル"と云われ、両手を広げおどけるかしぶちさん。か、かわいいい...

一時退場、あがたさんのライブへとつなぐります。青木孝明さんがサポートギター。ふたりはなんだか対照的でした。静と動と云うか。あがたさんは神がかり的で物凄い、圧倒されっぱなし。白熱の演奏後、最後はおふたり揃って「リラのホテル」を、期待通りのデュエットで。実は今まで断片的にしか聴いたことのなかったこの曲が、見事に繋がりました。

なんて綺麗な曲…。

かしぶちさんの時折フツと気の抜けるボーカルがまたイイ。あがたさんとのトークでは、冗談を云われ、「僕は何でもマジメにとるから…」とおっしゃった時のかしぶちさん、とても可愛らしかったです。終始ニコニコしていたような気がします。

ライブ後はサイン&握手会。なけなしのお金で SONGBOOK を買って列に並びました。握られたかしぶちさんの手はしっとり、そしてふっくらしており…ああ、幸せ。普段のかしぶちさんは、おだやかな色香を漂わせているけれど、そこにただ漠然とした裏の顔が浮かび上がるような気がするのです。激しい感情を持ったサディスティックな一面、という。ふと、ひとりになって、やるせない表情など見せた時に感じる、私だけの悦楽だとは思いますが…。

生身のかしぶちさんは、やっぱりすごくすごく格好良くて、薔薇の花を撒き散らす神様でした。ソフトでチャーミングな笑顔に惹かれつつ、毒のあるうつくしい棘に射抜かれた、という感じです。男女ともに骨抜きにされてしまう理由が判ります。これからも官能の唄をたくさん歌って頂きたいと願うばかりです。その度に私は喜んで尻尾振って駆けつけますから。

HP 掲載にあたり、オリジナル原稿より改行位置を変更させて頂きました。
(初稿 99.6.14 UP「櫛の会」管理人 KRAFT.WARTZ)